

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Cancer immunotherapy: moving beyond current vaccines.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ22-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ I ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Nat Med	
	雑誌 ID		
	巻	10	
	号	9	
	ページ	909-15	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2004 年 9 月	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Rosenberg SA	米国国立癌研究所
その他著者 1		Yang JC	同上
その他著者 2		Restifo NP	同上
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

レビュー研究の6項目	目的	メラノーマに対する癌ワクチンの効果を明らかにする
	データソース	NCI 外科における治療例 440 例および論文として報告された 35 の臨床試験の合計 765 例
	研究の選択	著者自身の経験例と著者が代表的と判断した臨床試験
	データ抽出	記載なし
	主な結果	NCI 外科：440 例中 14 例（2.6%）が PR 以上の有効。内訳別有効率は、ペプチドワクチン 11/323（2.9%）、ウイルスワクチン 3/160（1.9%）。 NCI 以外における臨床試験：765 例 39 例（3.8%）が PR 以上の有効。内訳別有効率は、ペプチドワクチン 7/175（4.0%）、ポックスウイルスワクチン 0/206（0%）、腫瘍細胞ワクチン 6/142（4.2%）、樹状細胞療法 14/198（7.1%） 両者の合計：1306 例のワクチン治療例における有効率は 3.3%
	結論	これまでのワクチン療法は有効率が低い。ワクチンによる腫瘍免疫の誘導を妨げる因子として、TGF- β 、IL-10、IL-13 などの免疫抑制性サイトカイン、制御性 T 細胞、抑制性共役分子 CTLA-4 などがあり、これらの抑制因子の制御が有効なワクチン療法開発の課題である。
	備考	このレビューの症例数には、腎癌などが少数例含まれているが、95%以上の症例がメラノーマであり、メラノーマに対するワクチン療法の評価と考えてよい。
レビューワーコメント	レビューワー氏名	高田 実
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ I ） NCI 以外の施設の臨床試験の選択基準がやや曖昧であるものの、メラノーマに対する現行のワクチン療法の効果をクリティカルに評価した論文といえる。